

ダンボの会通信

平成29年11月16日 発行：ダンボの会編集委員会
連絡先：090-5371-4439

《講演会を聴いて》 三谷真理

10月22日(日)14時から大田市中央図書館で、子どもゆめ基金助成活動講演会を聴講しました。講師は広島県からおいでになった小林いずみ先生(安田女子大学非常勤講師、東京子ども図書館評議員)で「読み聞かせをもっと深く知ろう」というテーマでお話しされました。

最近の赤ちゃんが絵本なのにスクロールしようとしていた衝撃的なエピソードから始まり、「本にはテレビ等目先の刺激と違ってイメージすることを学び、人の気持ちをおしはかることや言葉を育てる力がある。読み聞かせのような効率の悪いことをなぜするのかというと、ほっておいては本を読まない。そこに居る人がそこに居る人に読み、同じ体験をして親しみを感じ、言葉を通して結びつくことが大事」ということでした。「機械で流すのと違い、感情を持ったやり取りができ、やりとりで言葉が育つ。」と熱弁されました。

実践として「一番大事なものはなにを読むかである。小さい子供はわらべうたのようなリズム感がある調子のいい言葉が好き。大きい子供には本当にあった実話も心を打ち、机に突っ伏していた中学生が起きて聞き出した。」という先生ご自身の体験も紹介されました。「昔から子供におもしろいと読みつがれてきた本には魅力があり新刊にとびつく必要はない。基本は全員に聞こえて見えるように。」ということで、上手に読むことは考えなくていいそうです。読んだらすっと終わる。

先生の話し方は力強く、質疑応答も活発に行われ 会場は睡魔や台風21号も寄せ付けけないほどの熱気でした。雨でしたが、浜田や雲南からの参加もありました。

この講演をふまえ10月26日(木)朝、私は久手小6年生の教室に居ました。今年初めて見る6年生の大きさに圧倒されながら「フローレンス・ナイチンゲール」を読みました。たまたま当日の授業に関連があったもののチョイスが準備不足だったかなと反省。



熱気あふれる会場の模様



《さんべ絵本フェスタ》

11月11日(土)さんべ絵本フェスタが三瓶青年の家で開催され、三谷卓美さんと二人で「料理の国」のブースを受け持ち読み聞かせで参加してきました。

三瓶は平地よりも少し肌寒く感じましたが、私は熱い気持ちで臨みました。しかし、帰りはしょんぼり寒い気持ちで帰りました。料理の絵本ということで、なかなかおいしい本が見つからず、小物をいろいろ用意して行き、並べて置いたところ子どもたちの中には、読み聞かせより小物の方に興味を惹かれる子もいて、会場がざわざわして大失敗でした。三谷さんの「地獄のラーメン屋」はみんな静かに聞いていました。読み聞かせに行って、読み聞かせ以外の事で子供を引き付けようとした私には天罰が。(;-メ)

山崎一功



熱心に聞き入る子どもたち



始まる前の熱い私

《実践・読み合いの会》

11月12日(日)大田市中央図書館で「読み合いの会」がありました。普段はほかの人の読み聞かせをじっくり聞くことがないので大変参考になりました。

最初簡単な手遊びやわらべ歌で子供の気持ちを集中させ、読み聞かせに入ることや、いつもながらストーリーテリングの方の物語を覚えてお話しされるのには感心させられました。

山崎

《子供と本をつなぐための講座》

11月12日(日)島根県民会館で「子どもと本が出会うとき」と題し杉山さく子さん(東京子ども図書館理事・児童図書館運営委員長)の講演会がありました。

子供に本はなぜ必要か・読書活動の実態とその影響・子どもと本の出会いには大人がの存在が不可欠・字が読める事は本が読める事ではない等々貴重な話を聞くことができました。あっという間の2時間でした。

参考のため講演の中で紹介された本のリストと、読み聞かせの記録の付け方を入れておきます。 山崎



定員80名の会場はいっぱいでした。



会場から見た国宝松江城